



図 24.8 細菌性爪囲炎 (bacterial paronychia)
爪指、爪囲部の化膿性炎症。著明な圧痛を伴う。

排膿を行う。

6. 細菌性爪囲炎 そうい bacterial paronychia

同義語：ひょうそ瘰癧 (whitlow, felon)

Essence

- そうこう爪甲周囲で化膿性炎症をきたしたもの。擦過傷やかんにゅうそう陥入爪などを契機に発症することが多い。
- 拍動性の疼痛、発赤腫脹や膿瘍形成が主症状。
- 治療は抗菌薬の内服、切開排膿など。

症状

爪甲周囲の皮膚や皮下組織に細菌感染を生じ、拍動性の疼痛、腫脹、発赤、熱感、膿瘍などをみる（図 24.8）。緑膿菌感染の場合、爪甲が緑色を帯びる（19 章 p.372、緑色の爪参照）。爪甲剥離を生じることがある。日本では本症を俗に瘰癧（whitlow）と称するが、欧米で whitlow というと、ヘルペス性瘰癧（herpetic whitlow, 23 章 p.489 参照）をさす場合が多い。

病因

黄色ブドウ球菌や A 群 β 溶血性レンサ球菌、緑膿菌などによる。刺傷、陥入爪、絆創膏貼布などが誘因となって発症することが多い。

鑑別診断・治療

抗悪性腫瘍薬（10 章 p.159）やエトレチナートによる薬剤性爪囲炎、粘液嚢腫、グロムス腫瘍、オスラーOsler 結節、ヘルペス性瘰癧、カンジダ性爪囲炎などとの鑑別を要する。治療は局所安静と冷却、抗菌薬の外用および内服。必要に応じて切開排膿を考慮する。

7. 乳児多発性汗腺膿瘍 multiple sweat gland abscesses of infant

同義語：ブドウ球菌性汗孔周囲炎（periporitis staphylogenes）

新生児や乳幼児の顔面や頭部、背部、殿部に、有痛性の膿疱や皮下硬結、膿瘍を多発する。軽度の発熱を伴うこともある。汗疹（19 章 p.360 参照）が先行し、閉塞したエクリン汗腺に黄色ブドウ球菌が感染することで生じる。夏季に好発し、俗に“あせものより”と呼ばれる。治療は抗菌薬の内服および外用、必